

グリーン・エコー 第53回演奏会

三人の作曲家は、いずれも19世紀末から20世紀初頭にかけて東欧やオーストリアで活躍した芸術家たちである。ドイツ民族、スラブ民族、ユダヤ人が共存する多民族都市ウィーン。マーラーを始めこの街で生きたユダヤ人やスラブ人たちは、様々な分野で頭角を現した。

ヤナーチェクは、音楽を学ぶためにウィーンにきたが、音楽院に対する不満と異国での疎外感からチェコへ帰り、民族主義運動に加わった。ユダヤ人であったコルンゴ

ルトとツェムリンスキーは、ウィーンでの音楽的地位を捨てアメリカに亡命し、音楽史の表舞台から姿を消した。彼らはいずれもヨーロッパの「マイノリティ」であった。祖国へ戻ったヤナーチェクはともかく、居場所すら見出せなかったツェムリンスキーとコルンゴルトは、民族や宗教の問題に端を発して自らの音楽さえ封印されることになったことを考えると、20世紀を客観的に振り返ることのできる今、改めて彼らの作品の本質を見極められるのではないだろうか。



©Takashi Tomooka(rokunana)

指揮 下野竜也

SHIMONO, Tatsuya

1969年鹿児島生まれ。鹿児島大学教育学部音楽科を経て、桐朋学園大学音楽学部附属指揮教室で学ぶ。96年にはイタリア・シエナのキジアーナ音楽院でオーケストラ指揮のディプロマを取得。97年から99年まで大阪フィルハーモニー交響楽団指揮研究員として、故朝比奈隆氏の薫陶を受ける。99年文化庁派遣芸術家在外研修員に選ばれ、ウィーン国立音楽大学に留学、01年6月まで在籍。00年第12回東京国際音楽コンクール<指揮>優勝(第1位)と齋藤秀雄賞の受賞、01年第47回バザンソン国際指揮者コンクール優勝(第1位)で、一躍脚光を浴びる。以降、国内外の主要オーケストラに客演、その多くは再度の客演へと発展している。02年出光音楽賞、渡邊暁雄音楽基金音楽賞、06年第17回新日鉄音楽賞・フレッシュアーティスト賞、07年第6回齋藤秀雄メモリアル基金賞受賞。06年11月、読売日本交響楽団の「正指揮者」就任。07年4月より上野学園大学音楽文化学部教授。各地でのマスタークラスなど、後進の指導にも力を入れている。06年大阪フィル「ブルックナー：交響曲第0番」、08年読響「バッハ / 齋藤秀雄：シャコンヌ、コリアーナ：交響曲第1番」のCDをエイベックス・クラシックスよりリリースしている。

過越の祝いの詩篇

コルンゴルト

コルンゴルト(1897-1957)は、オペラ「死の都」の成功により、若くしてウィーンでの名声を獲得し、マーラーやリヒャルト・シュトラウスの後継と目されたが、ナチスに追われてアメリカに渡り、ハリウッドで映画音楽の礎を築いた。美しい旋律に彩られ、

大衆性と芸術性の絶妙なバランスを保つ彼の音楽は、近年再評価が進んでいる。

「過越の祝いの詩篇」は数少ない宗教的作品の一つであり、テキストにユダヤ教の過越の祭りの祈禱文を使っている。

詩篇第83番

ツェムリンスキー

ユダヤ人家庭に生まれたツェムリンスキー(1871-1942)は、ウィーンで仕事をするためにプロテスタントに改宗するなど複雑な宗教的環境に身を置いていた。シェーンベルクやコルンゴルトに作曲法を教え、フォルクスオーパーの指揮者に就任するなどウィーンで活躍していたが、ナチスによるユダヤ人排斥によって亡命を余儀なくされ、アメリカに渡った。

マーラーを理想とした作風は、シェーンベルク等の無調音楽とは一線を画し、後期ロマン派的な保守性をもっている。近年マーラーに次いで再評価されることになり、上演の機会も増えてきた。

「詩篇第83番」は、ブーム的な対位法による力強い骨格にマーラー的な変幻自在の和声が色彩感を添えた親しみやすい宗教作品である。

グラゴル・ミサ

ヤナーチェク

ヤナーチェク(1854-1928)の音楽が今日のように受け入れられるようになったのは第二次世界大戦後である。チェコの作曲家としてモラヴィア民謡の楽曲構造を取り込んだ音楽語法で、私達に新鮮な感動を与え、今日最も注目を浴びる作曲家の一人となっている。

「グラゴル・ミサ」は、教会音楽の形を借りてはいるものの、一

般的なミサ曲のイメージとは違う。作曲家自身も語っているように、背景には信仰的な動機よりも第一次世界大戦後高まった民族主義がある。テキストには古代スラブ語が使われており、民族の再生というテーマが織り込まれている。荒々しくプリミティブな力強さを持ったヤナーチェクの音楽は、自然や生命への讃歌に溢れ、普遍的な魅力を持っている。



菅英三子

ソプラノ SUGA, Emiko

京都市立芸術大学、ウィーン国立音楽大学卒業。フランススコ・ピニャス国際声楽コンクール他、多数の国際コンクールにおいて上位入賞。プラハ国立歌劇場『後宮からの逃走』でオペラデビュー。以後、国内外で幅広く活躍。ヘンデル、バッハを始めとする宗教曲から、オペラでは、モーツァルト、ドニゼッティ、ヴェルディ等のコロラトゥーラのほとんどをカバー。卓越したコントロール・テクニックと安定した歌唱に定評がある。京都市立芸術大学准教授。

栗林朋子

アルト KURIBAYASHI, Tomoko

東京芸術大学卒業。同大学院修了。安宅賞受賞。日本声楽コンクール、日本音楽コンクールで第1位。『フィガロの結婚』マルチエリナ、『魔笛』、『ファルスタッフ』、『ホフマン物語』、『パルジファル』花の乙女等で好評を博す。ツェムリンスキー「フィンツェの悲劇」他数多くのコンサートでも活躍している。テクニックの確かさに加え、深々とした豊かな表現力のある声質を持ち、真摯な姿勢は各方面より高い評価を得ている。二期会会員。



川上洋司

テノール KAWAKAMI, Hiroshi

東京芸術大学卒業。同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。<ヴェルディの声>国際コンクール、ベッリーニ国際声楽コンクール等で上位入賞。『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『仮面舞踏会』リッカルド、『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレード、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリドゥッ等、張りのある美声と端正な歌唱でいずれも高い評価を得ている。コンサートでもN響をはじめ主要オーケストラと共演。東京芸術大学准教授。二期会会員。

黒田 博

バリトン KURODA, Hiroshi

京都市立芸術大学卒業。東京芸術大学大学院修了。京都市芸術新人賞受賞。モーツァルトから現代の新作まで様々な作品に出演。特に『カルメン』エスカミリオ、『ニルンベルクのマイスターズinger』ザックスの好演は高く評価されている。コンサートにおいても日米欧14人の作曲家による「和解のレイクエム」日本初演、バカロフ「ミサ・タンゴ」日本初演の独唱を務めた。オペラ歌手4人による男声ユニット「THE JADE(ザ・ジェイド)」のメンバー。二期会会員。



グリーン・エコー 団員募集中



いっしょに歌いましょう! 意欲のある方大歓迎です。

- 練習日: 毎週木曜日18:30~21:00
 - 会 場: 名古屋市中区栄2-4-23 長円寺会館 ☎052-231-0955
 - 入会金: 1000円/月会費: 3500円(学生: 2000円)
- 資格・経験は問いません。詳しくは下記ホームページをご覧ください